

せとうちちょう 議会だより

第151号

平成25年11月発行

発行／鹿児島県瀬戸内町議会 編集／議会報編集委員会 〒894-1592 鹿児島県大島郡瀬戸内町古仁屋船津 23 番地



～衆議院議員会館にて意見交換及び要望を行う特別委員（関連記事9～10ページに掲載）～

- ★指導・助言を行う保岡代議士（写真上）
- ★国交省、防衛省、環境省、内閣府の担当官も多数出席（写真左下）
- ★次期奄振法の改正・延長に向けての説明を行う国交省の岡野特別地域振興官（写真右下）



こんなことを決めました

第3回定例会 9月5日~18日

第3回定例会では、決算議案11件、補正予算議案10件、条例議案4件、契約議案3件、人事同意議案1件の計29件の議案を審議し、それぞれ可決しました。

また、平成24年度各会計決算議案については、議長と議会代表監査員を除く8名で構成する決算審査特別委員会（委員長 林 健二、副委員長 鎌田愛人）を設置して審査を行い、最終日に委員長から審査報告がなされ、意見書を町当局へ提出しました。

（次頁に意見書掲載。なお、各会計決算額状況については町広報誌に掲載のため、割愛しました。）

主な議案の要旨は次のとおりです。

子ども・子育て会議条例の制定

子ども・子育て支援法に基づき、本町における子ども・子育て支援に係る施策の調査等を行なうもので、保護者、関係団体、学識経験者等（15人以内）で構成されます。

人権擁護委員に

高野 洋志氏

一般会計補正予算 (第2号)

西阿室小学校にジャングルジム(滑り台付)を設置

主な内容は、西阿室小学校に遊具整備費(滑り台付きジャングルジム)として134万円、奄美群島日本復帰60周年記念に伴う事業補助金として100万円、財政調整基金積立金に3億150万4千円、国民健康保険会計に赤字補てん繰出金として3500万円、クロマグロ給餌体験用筏整備事業補助金として100万円、鳥獣被害対策費として1527万4千円、消防分署前の空き地舗装に426万円、漁港災害復旧費として8084万2千円、農業用施設災害復旧費として1

270万円等を追加するものです。

総額4億4474万2千円を追加しました。

加計呂麻島

塵芥架装車(ごみ収集車) 売買契約

特定離島ふるさとおこし推進事業で加計呂麻島に塵芥架装車(ごみ収集3トン車)を購入するもので、渡辺自動車整備工場と836万7462円で契約しました。

町道網野子節子線道路改良工事契約

主な工事内容は、道路改良延長11155m、土工

一式、L型擁壁工1189m、軽量盛土工1130m、排水工落蓋側溝1181m、ガードレール設置工1132mで(株)泰江組と6300万円で契約しました。

23 災林道災害復旧事業阿木名清水線(3号箇所) 工事変更契約

当初、奄美興発(株)と8085万円で契約していましたが、現地再調査により、請負金額の変更を行うものであります。

主な変更点は、残土処理工及び法面保護工の数量減に伴い、請負金額を415万5千円減の7669万5千円とするものです。



（決算審査特別委員会による
審査状況（委員会室にて））



古高・自衛隊・世界自然遺産登録対策など

- 12項目に亘る意見を町当局へ提出 -

1. 町税・使用料等の徴収対策に努めるとともに、町有地等の未利用地の早期売却、貸付け等、更には新たな財源の確保に努力されたい。
2. 各特別会計は、一般会計からの繰入金に委ねることなく、特に国民健康保険特別会計の運営については、早期健全化に努められたい。
3. 町民との語る会等を積極的に実施し、町民参画のまちづくりを推進されたい。
4. 古仁屋高校の振興・自衛隊拡充及び誘致・世界自然遺産登録等の対策については積極的に取り組まれたい。
5. 寄り合い処せとうち及びアンテナショップの運営については、所期の目的が図られるよう努力されたい。
6. 我が町の沿岸漁業の衰退ぶりは、近年著しいものがある。漁業従事者の後継者育成、種苗の存続、燃油の直接補助を含めた各種補助事業、支援事業の充実を図られたい。
7. 本町の観光交流の拠点施設である「せとうち海の駅」の管理運営については、管理組合と十分に協議され、健全な運営が図られるよう努力されたい。
8. 景気対策・地域経済の活性化を図るため、更なる公共事業の導入と企業が新たな産業へシフトできるよう情報提供等に特段の努力をされたい。
9. 地域防災計画の見直しを早急に行ない、安心安全なまちづくりに鋭意努力されたい。
10. 消防操法大会（46年ぶり本町開催）に向け、消防団及び関係団体との連携強化を図り、準備体制の充実に努められたい。
11. 町民の健康増進とスポーツ振興を図るとともに、競技力向上のため体育施設整備の充実に努められたい。
12. 給食センター及び火葬場の早期建設に向けて取り組まれたい。

一般質問

第3回（9月）定例会では、6名の議員が町政全般に亘り、質問・提言等を行ない議論を交わしました。一部を要約して、紹介いたします。

なお、一般質問の詳細については町立図書館にて「会議録」をご覧ください。



林 健二議員

議員 観光振興について

1. 世界自然遺産登録に向けた地元を取り組みとして、町の計画等があればお示し下さい。

2. 知床・斜里町をモデルに、本町も独自に自然保護を目的とした寄付金を募り、同等の事業展開ができないか町長の見解を求めます。

町長 1. 平成25年8月1日に設置した「世界自然遺産せとつち町推進室」を中心に、拠点施設の誘致や、住民説明会等を行いたいと考えております。

2. 本町におきましては、

日本ナショナルトラスト協会とも連携を図りながら、本町にあった自然環境の保護活動事業についての、調査研究等を行っていきたいと思います。

議員 水産業の振興について

1. 燃油価格高騰対策として、漁船漁業者に対し燃油の直接補助が考えられないか町長の見解を求めます。

2. 国境離島周辺での漁業を活性化する事により、民間監視力を高めようという議論が高まっているが、この事に対する町長の見解を求めます。

町長 1. 燃油の直接補助については、奄水協を通じ、国や県に要望中であります。現在、漁協や県漁連で共済事業として実施している「漁業経営セーフティネ

ット構築事業」を進めて参りたいと考えております。

2. 現在実施しておりま

議員 教育・文化、人材育成について

奄美群島日本復帰60周年記念事業として、本町独自の記念事業を計画されているという事ですが、その内容をお示し下さい。

町長 11月2日に記念式典、3日に音楽フェスティバルを開催する予定であります。記念式典では、昇曙夢と日本復帰運動を語るシンポジウム等、音楽フェスティバルについては、本町出身の歌手や観光大使の方々に

よるイベントを計画しております。

議員 古仁屋高校の活性化について

町外から古仁屋高校へ入学する生徒を増やす施策等、考えられる事があればお示し下さい。

町長 県立高校通学区域に関する規則の改正により、来年度以降は、県外も含め、学区外からも入学が出来るようになりますので、今後「古仁屋高等学校ふるさと留学制度」の実効性に弾みがつくものと思っております。

また、古仁屋高校PR用DVDも制作中であり、下宿登録の募集も開始したところであります。





中村義隆議員

議員 日本復帰60周年 記念事業について

復帰運動を風化させないためにも学校教育での取り組みを伺います。

教育長 教育委員会独自の取り組みとしましては、教育課程の中に、平和教育・郷土教育として取り入れていきたいと考えておりまして、総合学習及び社会科の授業や学級活動並びに朝礼・講話等で、平和教育を実施してまいりたいと考えております。

議員 シーカヤックマ ラソンについて

今年の参加艇が218艇と昨年と比べて半数近く減っていますが、どのように分析しているのか伺います。

町長 今年度より参加者の安全面を最大限考慮するため「安全を確保できる参加人数」に制限して実施しております。本大会は、多くの市民の協力により成り立っております。

今後多く多くの市民が運営の中に参加し、安全で魅力ある大会を目指したいと考えております。

議員 一度の現象が起こると 予想される場合に発表し ます。これは、対象地域の 住民の方々に対して最大 限の警戒を呼び掛けるも のです。発表されたら身を 守るために最善を尽くし て下さい。

議員 2. 防災マップの整備を伺います。

町長 防災マップは、自然災害が予測される区域や避難場所、避難経路など住民が自主的に避難するために必要な防災情報を分かりやすく地図上に示したものであります。

議員 1. 8月30日に発表される「特別警報」を伺います。

議員 防災について

町長 平成25年8月30日から、新たに「特別警報」がスタートしております。通常の「警報」の発表基準をはるかに超える数十年

本町は、既存の防災マップに標高ゾーンを5段階に色分けした津波防災マップを作成しております。これを各避難所・嘱託員・中学校・福祉医療施設・5つの官庁へ配布いたしました。

今後は、津波防災マップを各地区に応じたものに編集整理し、全世帯へ配布できると進めて参ります。

議員 クロマグロについて

古仁屋高校生を近畿大学水産学部への進学を促し、卒業後は本町近大種苗センターの研究員として、雇用の確保、水産事業への貢献等図られないでしょうか伺います。

町長 これまで近畿大学水産研究所では、古仁屋高校で2回ほど公開講座等を開催し、地元の高校生に放流効果や水産教育の重要性など、豊かな海域性を生かした将来の水産展望等の紹介がされております。

今後、本町の自然環境や大島海峡の海域特性などを活用して、近畿大学や水産関連大学等との連携を図って参ります。

当局の方針を伺います。

町長 本町の来年度の予算編成については、「農業」「観光/交流」「情報」を産業振興の基軸としつつ、一次産業の振興を図るとともに6次産業化を推進して参りたいと考えております。



稲田隆一郎議員

議員 平成26年度予算 編成に向けて

一次産業振興対策に重点的に取り組むべきと思うが、

議員 1. 小規模農家の育成対策について伺います。

2. 新規就農者に対する起業化支援対策について伺います。

町長 1. 大島地域担い手育成総合支援協議会を組織し、支援体制の強化を行っているところです。

2. 農家の高齢化に伴い、極めて重要な施策だと認識しており、国においては、青年就農者給付金事業を実施し、就農意欲の喚起と就農後の定着を図る対策を講じているところです。

本町においては、営農支援センターを中心に農業の基礎知識や実習による栽培技術の習得や、今後の地域のリーダーとなる人材の育成を関係機関が一体となった取り組みが図られているところです。

議員 加計呂麻島の観光スポットである「嘉入の滝」に遊歩道橋の建設の考えはないか伺います。

町長 現段階においての計画はありませんが、「嘉入の滝」を含め、本町全域に広がる観光資源について、来町者の視線に立った整備が必要だと考えており、観光業者や関係機関と調査検討を重ねていきたいと考えております。

議員 **教育行政について**

1. 本町の不登校児童・生徒への指導について伺います。

2. 学校施設における体の不自由な児童・生徒への対策について伺います。

3. 給食アレルギー事故防止対策について伺います。

4. 食育に対する教育委員会の取り組みについて伺います。

ます。

教育長 1. 不登校傾向からの段階における原因の情

報収集及び分析、スクールカウンセラーや民生委員等、福祉関係者との連携を図りながら、家庭訪問を含めた教育相談の実施等、教職員全員の共通認識のもとでの協力体制を図っております。

2. 改築時におけるスロップ化やトイレの洋式化、手すりの整備、特別支援室へのトイレ及びシャワー施設の設定等、また、特別支援教育支援員の配置などを行い、安全確保を図っているところであります。

3. 年度当初に全児童生徒の食物アレルギー調査を実施し、実態の把握をしております。また、給食センター職員の共通理解の下、原因食品混入防止、誤配送防止の徹底を行うとともに、

各学校においても受け取り時の確認及び各学級でも担任がチェックし、該当児童生徒へ渡しております。

4. 給食指導強調週間におけるマナー指導やかむ指導及び衛生管理指導、栄養教諭による食に関する訪問指導等を実施しております。



向野 忍議員

議員 **世界自然遺産登録について**

1. 「世界自然遺産せとうち町推進室」を設置されたが、その内容と今後の取組み等について伺います。

2. 本町の地域活性化にどのように活かしていくのか伺います。

3. 観光受け入れ態勢の整備(宿泊施設等)について伺います。

町長 1. それぞれの担当部署で行ってきた活動を一本化し、拠点施設(自然遺産センター)の誘致促進を目的とした「奄美・琉球」の自然遺産登録に向けた対外的窓口となります。

2. 交流人口増に繋がるような施策を調査・研究して行きたい。自然環境を活かしたエコツーリズムなど、観光・体験活動等により自然に優しい観光を実施し、併せて自然環境の保護・保全も目指して行きたい。

3. 宿泊施設の拡充を図っていく必要がありますので、新規参入者への貸付制度の情報提供や手続き等を行い、整備していかねばならないと考えております。

議員 自衛隊の誘致及び拡充について

「誘致推進協議会」のこれまでの要望活動とその成果、今後の取り組み等について伺います。

町長 5月末の要望活動は、防衛大臣政務官から前向きな感触を得ることができ、必要性への理解が示されたことが大きな成果であります。

今後の取り組みについては、南西地域の防衛、災害対応強化のために、陸上自衛隊が新たに奄美群島と沖縄県先島諸島を対象に調査を行うとしておりますので、防衛省の動向を注視して対応して参りたい。

議員・意見 誘致可能な場所を2、3カ所検討して選定するなど、他候補地よりも最優先されるように積

極的に動くべきではないか。

議員 古仁屋高校の存続・振興対策について

平成26年度入試より大島学区の普通科へ入学を希望する生徒に対し、県外も含め学区外からの受験が可能になった。

本町の「ふるさと留学制度」の現状と今後の取り組みについて伺います。

町長 現在、古仁屋高校のPR用DVDの作成中であり、町外からの受け入れ態勢に向け、下宿登録の募集も始めた。説明整備が整いましたら各郷友会等での広報活動を展開していきたい。

議員・意見 古仁屋高校の寮の整備・復活も考えていくべきではないか。

その他の質問

●医療・介護・福祉の連携・充実について(請島、与路島に対する介護サービスの格差是正について、へき地診療所の現状と今後の取り組みについて等)



鎌田愛人議員

議員 古仁屋高校の振興対策について

①町内の児童・生徒が少ない中で、地元から6割が入学しても2学級確保がむずかしい。

したがって、町外からの生徒を確保する必要があるが、町外からの生徒の受入れ体制(下宿先募集)の状況は。

企画課長 町のホームページ

ジヤ広報紙による募集を行っているが、一件もない。これを解決しないと古高のPRが出来ない状況であります。

議員 ②今ある寮を改修して使用できるか、町が調査費を計上して、調査する必要があると思うが。

企画課長 調査したいと思

議員 ③専門的な顧問のいない部活動に町が指導者を派遣し、また、全国大会予選への旅費の助成を考えるべきでは。

教委総務課長 小中学生、社会人に対しては、町各種大会に対する補助基準要綱がある。古高についても統一した形で改正に向け検討したい。

議員 せとうち海の駅について

「指定管理者の解除を視野に入れた協議」の申し入れがあったとのことであるが、今後の方向性は。

町長 「せとうち海の駅」の所期の目的を達成するためには、瀬戸内漁協をはじめ関係団体の協力が不可欠だと考えております。

「古仁屋漁港ターミナル管理組合」並びに関係団体と協議を進め、より良い施設運営を構築していく考えであります。

議員 火葬場の建替えについて

政府は火葬場建設について、過疎債の対象とすることを検討しているが、そうなった場合の対応は。

町長 今回の政府の過疎事

業の対象にもなるということになれば、今後は機器点検や建物の耐久性等の調査を行い、関係機関と協議し、総合的な改築計画を検討しなければならぬと考えております。

議員 本町の2大イベントについて

「奄美シーカヤック加計呂麻大会」「加計呂麻島ハーフマラソン大会」の今後の方向性は。

まちづくり観光課長

伴走艇の打合せを綿密にして、伴走艇を増やし、シーカヤック大会の申込数を増やしたい。

町長

世界自然遺産登録、交流人口の増、本町の観光PR、これを強く打ち出した、住民参加のシーカヤック大会、ハーフマラソンでなければならぬと思っています。

ることも予測されるためダム等の水源開発により水源の確保を図ることが望ましいと考えております。

総合（多目的）ダムの建設については、多額の財源を伴うので、今後の水需要の動向を見ながら国・県等の関係機関と協議・検討して参りたいと思います。

議員 世界自然遺産登録に向けての活動について

最近、推進室を設置されましたが、推進室の役割、方向性をお尋ねします。

町長

これまで、世界自然遺産登録に伴う事務事業を関係課で行ってきましたが、それを一本化し、拠点施設（自然遺産センター）の誘致促進を目的とした、「奄美・琉球」の世界自然遺産登録に向けた、対外的

窓口と考えております。

方向性については、拠点施設の誘致促進はもちろんのこと、平成28年の世界自然遺産登録に向けた、関係事業を推進して参ります。

議員 「寄り合い処せとうち」の現状について

利用状況、これからの方向性等について伺います。

町長

「寄り合い処せとうち」の平成24年度の利用者は、2371人であります。今後も、子供から高齢者まで町民誰もが気軽に集える場として、また、自治会や同窓会、各種団体等の役員会の会場として利用していただきたいと思っております。

議員 海の駅の経営状況について

海の駅の経営については

厳しいという声を聞きますが、実際の状況、経営参画（町として）、これからの見通しについて伺います。

町長

「せとうち海の駅」の経営状況については、平成24年度総売上5251万1千円、総費用5215万9千円で差引き35万2千円の黒字となっておりますが、厳しい経営状態であると認識しております。

見通しについては、指定管理団体である「古仁屋漁港ターミナルビル管理組合」並びに瀬戸内漁協等の関係団体と協議を進め、より良い施設運営を持続させていく考えであります。

その他の質問

- ◆農地銀行の設置について
- ◆鹿児島・福岡のアンテナショップの現状について



元井直志議員

議員 総合ダム建設について

将来に備えて本町も、総合ダムを建設しておかねば

町長

現在、水利としての水量に逼迫した問題はありませんが、将来の社会環境の変化により水需要が増え

委員会活動

文教厚生常任委員会（鎌田愛人委員長）、持続可能なまちづくり調査特別委員会（岡田弘通委員長）、世界自然遺産登録に向けての調査特別委員会（岡田弘通委員長）の委員長報告がなされ、概要は次のとおりです。

尚、世界自然遺産登録に向けての調査特別委員会報告は、次号に掲載予定です。

文教厚生常任委員会

『養護老人ホーム寿老園の増床に関する陳情』を採択

養護老人ホーム寿老園の待機者解消策として10床の増床計画に関する陳情で、町保健福祉課長及び同介護福祉係長並びに陳情者に出席を求め審査しました。

10床増床した場合の町負担金への影響額については、157万3千円の増となることと、委員からは、「待機者の解消を図るためにも必要である」、「地域への貢献度もあり、町としても応援してもらいたい」、「生活保護の多い町として養護老人ホームは必要。雇用の面からも増床すべき」等の意見が出されました。

以上の審査を踏まえた結果、全会一致で採択すべきものと決定しました。

『西阿室小学校校庭に遊具の設置を求める陳情』を採択

本陳情については、9月定例会の補正予算において西阿室小学校への遊具整備134万円が計上されており、また、教委総務課長から滑り台付きジャングルシ

ムを同校に整備する予定であることとであったので、全会一致で採択すべきものと決定しました。

持続可能なまちづくり調査特別委員会

『持続可能なまちづくりに関する調査』報告

議会として町の長期振興計画及び次期奄振事業への振興策を反映すべきこととで本特別委員会を設置し、町当局、県離島振興課、地元国・県選出議会議員等の調査を行いました。



金子・禧久県議と意見交換、要望を行う特別委員～県議長会会議室にて～

始めに、金子・禧久両県議と意見交換会及び要望を行いました。

次期奄振について、両県議からは、「沖振並みの助成制度に向けて努力すべきであり、ハードよりもソフト、農産物輸送軽減等の交付金措置に変わっていくものと思われる。」とのことでありました。また、本町への提言として、「次期奄振については、農産物の輸送費軽減が図られると思うので、農産物生産で外貨を得る元気なまちづくりに努力してもらいたい。私共も一緒に頑張って頑張る。」とのことでありました。

次に、県離島振興課にて本田課長はじめ4人が出席し、調査を行いました。離島振興課からは、奄振法延長に係るこれまでの経緯や今後の取り組み等についての説明を受けました。

特定離島ふるさとおこし推進事業については、「知事も離島振興については理解を示しているので、内容充実と予算確保に努力していく。」とのことでありました。

本田課長からは、「地域が必要な様々な事業を要望してもらいたい。そして大いに『チャレンジ』してもらいたい。県としても奄美離島の振興に努力していく。」とのことでありました。



県離島振興課にて調査を行う特別委員

次に、衆議院第1議員会館において、保岡・徳田両代議士との意見交換会及び要望を行いました。国交省、環境省、防衛省、内閣府の担当官も出席され、有

意義な調査となりました。

保岡代議士からは、「次期奄振での交付金創設については、沖縄と調和ある発展ということで強く政府に理解を求めている。自衛隊の誘致・拡充についても強い応援団として頑張っていく。」とのことでした。

徳田代議士からは、「奄振延長・改正については、県選出議員一丸となって取り組む。自衛隊についても自民党防衛関係議員へ働きかけていく。」とのことでした。

また、今後のまちづくりについて、「漁協と町が連携し、クログマグロを活用した事業を検討する必要があるのではないか。」「宇検村との交流及び観光連携を図るための交通アクセスの改善、トンネル等交通網の整備等を両町村で早急に検討する必要がある。」との提言がありました。

国交省の担当官からは、「交付金についての文言を意見書案に入れる。それに伴う予算措置が重要であるので努力していきたい。」

防衛省の担当官からは、「鹿児島から沖縄の約650kmに亘る地域に陸上自衛隊の配置がない空白地帯である。今年12月に策定される防衛計画において、南西諸島・奄美の位置付けについて具体的に明記できるように努力していく。」

内閣府沖縄政策担当官からは、沖縄振興一括交付金についての説明があり、特にソフト事業において、「離島交通コスト負担軽減事業」として船賃・航空運賃を沖縄本島と離島線、各離島間の割引きを3割と5割引の実施、農林水産物流条件不利性解消事業として、本土向けに出荷する県産農林水産物の輸送費を補助対象品

として補助（予算額28億2900万円）している。」とのことでありました。

また、森山裕代議員、加治屋義人農水省副大臣（当時）、野村哲郎参議院議員を表敬訪問し、奄振延長・改正、自衛隊関係、世界自然遺産登録についての要望を行い、「全力を尽くして頑張っていく。」との力強い言葉をいただきました。

以上の調査を踏まえ、次の意見を町当局へ提出しました。

『持続可能なまちづくりに関する調査』意見

1. 奄美群島振興開発事業の延長と内容改善については、沖縄県との調和ある発展を強く国に働きかけて「交付金」と「補助率の嵩上げ」等の制度確立に努力されたい。

2. 国・県事業の要望等については「チャレンジ精神」

を持って取り組まれたい。

3. 長期振興計画の後期5ヶ年計画策定に早急に取り組み、職員の英知を結集し、住民の意向、更には外部有識者等の意見を取り入れ、持続可能なまちづくり計画書を策定されたい。

4. 世界自然遺産登録による活性化対策事業及び自然環境に配慮した工口車の導入、自然エネルギー利用の事業の導入について、特定離島ふるさとおこし推進事業等において検討されたい。

5. 自衛隊の拡充・誘致については、国及び防衛関係の国会議員等へ粘り強く要望を行うとともに、著名な防衛の専門家及び防衛関係の国会議員の方を招聘し、講演会等の開催に努められたい。

6. 行財政運営については、時代に即応した組織体制と財政運営に努められたい。

編集後記

巨星墜つ

▼10月20日、町田建設会長の町田実孝氏が亡くなられた。

瀬戸内町に大きな関わりのある人で、春日の埋め立てを皮切りに、『奄美の園』『警察書』『図書館』のある、あの広大な芦瀬地区の埋め立て、また、みなと祭りの夜の風物詩、花火大会に欠かせない台船の提供、シーカヤック大会の最初の頃の多大な資金面での協力と、35年間に氏が我が町に残した足跡は余りにも大きい。

その功績は誠に大なるもので、里、義永、房と三代の町政にわたる。心からなる敬意を表し御冥福を祈ります。

合掌。

(安)